

【競技種目：ソフトボール（女子）】 古河市

キャッチフレーズ	明るい、温い、住みがいのあるまち		
面積	21.00k m ²	人口	59,615 人
特産品	御家宝・鮎甘露煮・洋傘・米・はくさい・キャベツ・お茶		
<p>【我がまち自慢】</p> <p>古河市は、関東平野のほぼ中央、茨城県では最西端に位置し、東京都心から約 60km、埼玉・栃木・群馬の県境に接し、南に利根川、西に渡良瀬川が流れ、北西には広大な渡良瀬遊水地が広がっています。</p> <p>我が国最古の歌集「万葉集」に、許我（こが）と詠まれて以降、室町時代の 5 代にわたる古河公方、江戸期は徳川三代の将軍に仕えた大老土井利勝や雪の結晶の観察で有名な土井利位などを輩出しました。</p> <p>明治になって「糸のまち」として栄えるなど、それぞれの時代の政治・文化・経済の拠点として発展してきました。</p> <p>長い歴史をもつ古河市は、教育・福祉・環境の充実をめざし、その実現のため、教育・文化・スポーツ活動の充実した「心ゆたかなまち」、福祉・保健・医療の充実した「ふれあいのまち」、防災・環境に配慮した「安心して住めるまち」、景観・みどりの保全創造と交流を促進する「うるおいのあるまち」、バランスのとれた経済活動が展開される「わくわくするまち」の 5 つの目標のもと、訪れるひとが住みたいと思う、そして住んでいるひとが住んでよかったと思える。そのようなまちづくりを進めています。</p>			
【文化・観光施設の紹介】			
名称:古河歴史博物館			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 場所 古河市中央町 3-10-56 ■ 問い合わせ先の電話番号 0280-22-5211 ■ 料金 大人 400 円 小人 100 円 <p>古代から現代までの古河の豊かな文化遺産を一堂に展示。文化価値の高さで注目を集めています。</p> <p>周囲を古河城の山城跡の樹木と堀に囲まれ、歴史と伝統を感じさせてくれる雰囲気を楽しんでいます。ホールには、オランダの楽器ストリートオルガンがあり、異国の音色を楽しむことができます。</p> <p>(開館時間/9:00~17:00) (休館日/月曜・祝日の翌日)</p>			
名称:古河文学館			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 場所 古河市中央町 3 10 21 ■ 問い合わせ先の電話番号 0280-21-1129 ■ 料金 大人 200 円 小人 50 円 <p>古河出身で歴史小説の第一人者である永井路子や推理作家の小林久三など、古河ゆかりの作家の作品や肉筆原稿、絵本や漫画などの資料を潤沢に収蔵・展示しています。</p> <p>大正ロマンの香りが漂う洋館が、落ち着いた雰囲気皆様をお迎えます。</p> <p>(開館時間/9:00~17:00) (休館日/月曜・祝日の翌日)</p>			

古河市

名称: 篆刻（てんこく）美術館

- 場所 古河市中心中央町 2-4-18
- 問い合わせ先の電話番号 0280-22-5911
- 料金 大人 200 円 小人 50 円

日本で初めての篆刻専門美術館です。旧城下町の石町（こくちょう）通りに面して、大正9年に建築された3階建て石蔵を改修したもので（国登録有形文化財）、展示室も当時の雰囲気を残しています。

（開館時間/9:00～17:00）

（休館日/月曜日・祝日の翌日）

名称: 古河総合公園

- 場所 古河市大字鴻巣 399-1
- 問い合わせ先の電話番号 0280-47-1129（公園管理事務所）
- 料金 無料（駐車場: 桃まつり期間中有料）

25haにおよぶ広大な総合公園で、四季折々に美しい花々が訪れる人を和ませます。

3月下旬からの「桃まつり」では、2,000本の花桃が美しく咲きそろう各種イベントが催され、50万人が訪れます。7月下旬からは古代蓮として有名な「大賀蓮」の花が楽しめます。

ほかに国・県指定文化財のかやぶきの民家が2棟。復元した「御所沼」は幾重にも半島が突き出し、いかにも「公方館」跡の面影を残しています。市民はもとより、近県からの来園者が楽しい一日を過ごしています。

名称: 提灯竿もみまつり（12月第1土曜日）

- 場所 古河駅東口
- 問い合わせ先の電話番号 0280-23-0030（古河市観光協会）
- 料金 無料

関東の奇祭として、また「おかえり」の愛称をもって広く近隣に知られています。市内の自治会や職場の団体が参加し、それぞれ20m近い長さの竹ざおの先に提灯をつけて、相手の提灯を消そうと激しくもみ合うさまは誠に勇壮です。